

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著、 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書(欧文)) 1. 2.				
(著書(和文)) 1. 『国際文化研究への道－共生と連帯を求めて』  3. 『政治風刺画による「社会不安」の可視化と「黒人支配」への恐怖：20世紀転換期の米国地方紙にみるネガティブ・キャンペーンと「人種」』	共著          単著	2013年4月          2021年3月	彩流社          ミネルヴァ書房	<p>本書第4部「アートと政治」、第10章「政治風刺画の『意図』と『解釈』－ノースカロライナ州における反黒人キャンペーンと図像イメージ」(253-274頁)の執筆を担当した。本稿は、ノースカロライナ州における反黒人キャンペーン(1898年)で描かれた74枚の風刺画に込められた意図を、図像コードと表現様式の詳細な分析を通じて検討した。その結果として、言語表現の極端な抑制と白人政治家の詳細な描写が風刺画描写における特徴であり、人民党員からの支持の獲得がテーマとしてあった点が明らかとなった。また風刺画には、貧しく識字力を持たない白人たちを政治動員する意図があったことも指摘した。(共著者、執筆順)曾士才、森村修、桐谷多恵子、中山寛子、斉藤徳博、小林昭菜、守屋貴嗣、浅利文子、川村湊、熊田泰章(編者)、<u>深松亮太</u>、田島樹里奈、南塚信吾、高柳俊男。</p> <p>米国で「黒人支配」という虚構の「可視化」はいかに行われたのか。経済不況や移民問題を抱えた20世紀転換期の米国。「黒人支配」という誇張表現によって煽られた恐怖は風刺画によって可視化され、更なる「社会不安」を扇ぎ立てた。本書では当時の地方紙を紐解き、「黒人による白人の管理・支配」という逆転を伴って描かれた風刺画が与えたインパクトをはじめ、その最中であっても冷静に融和言説を唱えた人々たちの姿を明らかにした。(256頁)</p>

<p>4. ハーレム・ルネサンス - 〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批評- (招待原稿)</p>	共著	2021年8月	明石書店	<p>担当箇所：第3章「黒人指導者の「戦略的融和主義」—1920年代に至る歴史思潮と人種差別制度成立過程における葛藤」(pp. 64-81)では、1865年から1910年に至る時代における黒人たちの歩みを概略的に示すことによって、「ハーレム・ルネサンス」という現象を理解するためのバックグラウンドを読者に提供した。また、この小論では、人種差別制度が法制化していく過程において黒人指導者たちが示した「戦略的融和主義」の実態に迫ることで、時代を超えた「思想連関」の可能性を提起した。共著者：深瀬有希子(編者)、常山菜穂子(編者)、中垣恒太郎(編者)、深松亮太、他27名。</p>
<p>5. 神奈川から考える世界史--歩いて、見て、感じる歴史</p>	共著	2021年12月	えにし書房	<p>担当箇所：コラム「横浜居留地の風刺画文化」(pp. 57-58)では、日本に風刺画の文化を持ち込んだチャールズ・ワグマンとジョジュール・ビゴーについて紹介した。共著者：藤村泰夫【監修】、藤田賀久【編者】、深松亮太、他16名。</p>
(学術論文(欧文))				
1.				
(学術論文(和文))				
<p>1. 「ポピュリスト運動と『人種』—20世紀転換期アメリカ合衆国における国民化のプロセスと『白人支配』—」(修士論文)</p>	単著	2008年3月	埼玉大学	<p>本稿は、合衆国における国民の境界制定が、国内外を横断して行われつつある状況において、人民党員の人種観が変化していった過程を考察した。ここで注目したのは、南部の黒人問題と中西部において活発に議論された植民地住民をめぐる問題についてであり、人民党員たちは、人種の差異と「政治的適性」をめぐる議論に関わるこれらの問題と日常的に接することで、人種に対する自らの意識を強化させていったことを明らかにした。(92頁)</p>
<p>2. 「『貧しい農民』の連帯から『貧しい白人農民』の連帯へ—ノースカロライナ州におけるポピュリスト運動と黒人投票権の剥奪—」(査読付)</p>	単著	2012年3月	『アメリカ・カナダ研究』No. 29 (上智大学アメリカ・カナダ研究所) :3-27.	<p>本稿は、ノースカロライナ州の人民党員たちが、黒人投票権の剥奪をめぐる議論のなかで、人種の差異に対する意識を強化すると共に階級に対する認識を改めて強化していく過程を考察した。ここでは、黒人の政治的権力の拡大に対する懸念が争点となった1898年の州議会選挙及び、投票権の制限が争点となった1900年の州議会選挙に焦点をあて、民主党および人民党の機関紙や選挙パンフレットを主な資料として分析を行った。</p>

<p>3. 「黒人投票権の剥奪と政治風刺画—ノースカロライナ州における事例を通じて—」（査読付）</p>	<p>単著</p>	<p>2017年3月</p>	<p>『国際文化表現研究』第13号(国際文化表現学会):52-70.</p>	<p>本稿は、「投票権の制限」をめぐる選挙キャンペーン（1900年）に際して描かれた47枚の風刺画の分析を通じて、「白人支配」のさらなる強化という目的が、どのように表現・宣伝されたのかを考察した。その結果として、「黒人支配」が完全に解決していないことが積極的に表現された一方で、「投票権の制限」という真の争点が、議論のすり替えなどを通じて隠蔽されていた事実を明らかにした。さらには、黒人が白人に対して暴力を行使するという非現実的な状況を描くうえで、風刺画が重要な役割を果たしていたことを指摘した。</p>
<p>4. 「政治風刺画による『支配』の社会言説化とその表象機能に関する研究—ノースカロライナ州における『反黒人キャンペーン』と図像イメージ—」（博士論文）</p>	<p>単著</p>	<p>2018年3月</p>	<p>法政大学</p>	<p>本稿は、20世紀転換期のノースカロライナ州における政党政治の対立に注目し、その選挙運動時に流布された「黒人支配」という言説の生成過程を検討した。分析においては、言語表現に加えて、非言語表現としての視覚表象の効果を重視した。結論として、「黒人支配」なる虚妄の実態を現実感を持って民衆に知らしめる上で風刺画が有した影響力を強調した。（219頁）</p>
<p>5. 「風刺画描写における表現手法の国際移動：Review of Reviewsとアメリカ諸紙を事例として」（査読付研究ノート）</p>	<p>単著</p>	<p>2020年3月</p>	<p>『国際文化表現研究』第16号（国際文化表現学会）：110-123.</p>	<p>1890年代から英国で発行されている総合誌とアメリカの新聞を資料として、風刺画家が互いの作品を模倣しながら表現様式を確立していく過程を考察した。</p>
<p>(紀要論文)</p> <p>1. 「19世紀後半アメリカ合衆国における市民要件とその表象言説—新聞メディアにみる『人種イメージ』の形成—」</p>	<p>単著</p>	<p>2017年4月</p>	<p>『異文化』第18号（法政大学国際文化学部）：41-64.</p>	<p>本稿は、19世紀後半の合衆国において「市民要件」をめぐる問題が国内外を横断して議論されていた点に留意し、その過程のなかで行われた「他者表象」の諸相を分析した。その結果として、アイルランド系移民をめぐる問題では、かれらを同一の国民として包摂しえない進化の遅れた存在として印象付ける手法が頻繁に利用された一方で、米西戦争で獲得した領土住民は庇護・教育が必要な存在として表象されていた事実を示した。また、これらの「他者表象」においては、黒人に対する差別的なイメージと類似した手法が用いられていたことも重要な点として指摘した。</p>

<p>2. 「ポピュリストと帝国主義論争：米国議会議員たちの言説にみられる領有支配と『人種』」</p>	<p>単著</p>	<p>2022年3月</p>	<p>Tama University School of Global Studies Bulletin Issue 14 (多摩大学 グローバルスタ ディーズ学部) : 27-42.</p>	<p>本稿では、合衆国連邦議会議事録の分析を通じて、人民党員たちの帝国主義観に関する考察を行った。先行研究において、彼らはアメリカ合衆国の帝国主義化を後押しした存在として位置づけられてきた。しかし彼らは、移民の大量流入の問題や、人道主義、他国への不干渉主義といった理由から合衆国の帝国主義化に反対しており、なかでも市民権の範囲をめぐる問題が彼らにとって一番の争点であったことを示した。</p>
<p>3. 「上級英語の現状と展望：FTEC（共通基礎英語）からアカデミック・イングリッシュへの架橋をめざして」（研究ノート、筆頭著者）</p>	<p>共著</p>	<p>2022年3月</p>	<p>人間科学 第39巻、 第2号（常磐大学人間科学部）：99-109.</p>	<p>本項では、常磐大学の全学共通英語科目である英語 I から英語VIとその上位科目として位置付けられる現行（執筆当初）の「上級英語」を有機的に結びつける方向性を模索することを目的として、FTECが抱える諸問題に言及しつつ検討した。結論としては、学士力を強化するための一つの方法として英語教育の強化が必要であり、23年度より実施される「選択英語」の意義を学部・学科を超えて共有することの必要性を示した。 (共著者：平田亜紀)</p>
<p>(辞書・翻訳書等)</p>				
<p>1. 2.</p>				
<p>(報告書・会報等)</p> <p>1. 「国際文化学会：若手研究者紹介」（招待原稿）</p>	<p>単著</p>	<p>2019年2月</p>	<p>日本国際文化学会 『ニューズレター』 第41号</p>	<p>日本国際文化学会が発行するニューズレターの特集「若手研究者紹介」に掲載された本稿では、筆者のこれまでの研究の概要及び、筆者本人が考える学問としての「国際文化学」の意義について論じた。本稿は、日本国際文化学会ホームページ上に掲載されている。 (<a href="http://www.jsics.org">http://www.jsics.org</a>)</p>
<p>(国際学会発表)</p>				
<p>1. 2.</p>				

<p>(国内学会発表)</p> <p>1. 「ポピュリスト運動と『人種』—20世紀転換期アメリカ合衆国における国民化のプロセスと『白人支配』—」(査読付)</p>	<p>単独</p>	<p>2008年4月</p>	<p>日本アメリカ史学会 第12回例会 於専修大学</p>	<p>本報告は、人種の差異と「政治的適性」をめぐる問題がアメリカ合衆国の内外を横断して議論されていた背景のなかで、人民党員たちの人種観が変化したことを示した修士論文の内容について報告を行った。報告では、人民党員たちの発言の変化について、一次史料を用いて実証的に示した。コメンテーターからは、投票権の制限という現実的な問題に直面するなかでの変化を捉え、それを示した点が重要な発見であったという評価を得た。</p>
<p>2. 「ポピュリスト運動と帝国主義論争—植民地住民のシティズンシップを巡る議論と人種—」(査読付)</p>	<p>単独</p>	<p>2011年6月</p>	<p>アメリカ学会 第45回年次大会 於東京大学</p>	<p>本報告では、合衆国連邦議会議事録の分析を通じて、人民党員たちの帝国主義観に関する考察を行った。先行研究において、彼らはアメリカ合衆国の帝国主義化を後押しした存在として位置づけられてきた。しかし彼らは、移民の大量流入の問題や、人道主義、他国への不干渉主義といった理由から合衆国の帝国主義化に反対しており、なかでも市民権の範囲をめぐる問題が彼らにとって一番の争点であったことを示した。</p>
<p>3. 「図像コードを通じた政治風刺画の読解—ノースカロライナ州における『反黒人キャンペーン』を事例として—」</p>	<p>単独</p>	<p>2012年12月</p>	<p>国際文化情報学会 2012年大会 於法政大学</p>	<p>本報告では、ノースカロライナ州における「反黒人キャンペーン」(1898年)に注目し、そこで描かれた政治風刺画が意図した効果を、図像コードの読解を通じて分析した。その結果として、風刺画では言語による表現を最小限に留めることで、非識字者がメッセージを直接的に受信できるような配慮がなされていたことが明らかとなった。また風刺画においては、時として掲載を決定していた当事者にとって不都合な事実が描かれていた事実を提示し、政治風刺画が有した意図とその効果の複雑性についても指摘した。</p>
<p>4. 「黒人投票権の剥奪と政治風刺画—ノースカロライナ州における事例を通じて—」(査読付)</p>	<p>単独</p>	<p>2013年9月</p>	<p>日本アメリカ史学会 第10回年次大会 於立命館大学</p>	<p>本報告では、ノースカロライナ州における1900年の選挙キャンペーンで描かれた41枚の風刺画を対象として、図像コードを通じた分析とともに、2年前のキャンペーンの図像との比較も行った。結果として、人民党や共和党の弱体化や黒人による暴力や不正に関する描写が増えていることが明らかになった。また、これらの図像からは、「支配」という行為の首謀者に転換がもたらされることに対する白人社会の恐れ、慄きが垣間見えることを示した。</p>

5. 「政治風刺画がつくりあげた『社会不安』—ノースカロライナ州における反黒人キャンペーンを事例として—」	単独	2014年12月	メディア史研究会第264回月例研究会 於 日本大学	本報告では、1898年と1900年のノースカロライナ州で展開された2つの選挙キャンペーンを連続したムーブメントとしてとらえ、そこで描かれた風刺画描写にみられる連続性と断続性について検討した。その結果として、言語表現の極端な抑制が両キャンペーンに共通することを指摘した。その一方で、1898年においては、白人の政治家が写実的に描かれていたのが、1900年のキャンペーンでは、ぞんざいな表現が用いられている点に大きな変化がみられた。この変化の背景として、報告者は、1898年の選挙において敗北した連立政党の政治力が衰退している様子を表現する意図があった点を指摘した。
6. 「風刺画描写における表現様式の模倣と応用—Review of Reviewsとアメリカ合衆国諸誌にみられる風刺画家の「知」の交流—」（査読付）	単独	2018年7月	日本国際文化学会第17回全国大会 於 多摩大学	本報告では、政治・社会・経済をめぐる各国の結びつきが、文化面において如何なる交流関係にあったのかを、各国で描かれた風刺画にみられる相互影響的な関係に注目することによって検討した。具体的な資料としては、ロンドンで1890年に刊行され、アメリカ合衆国やオーストラリアでも創刊されたReview of Reviewsを中心として用い、分析を行った。この考察を通じて、政治風刺画にみられる表現様式という「知」が、グローバルな交流のなかで確立していった諸相に迫ることができた
7. 「『黒人支配』の詭弁と人種間の政治的平等の模索—ノースカロライナ州における反黒人キャンペーンの展開と黒人指導者による対抗言説—」（査読付）	単独	2018年9月	日本アメリカ史学会第15回年次大会 於 日本女子大学	本報告では、ノースカロライナ州の人民党と共和党の連立政権への反動として展開された反黒人キャンペーンに対して、批判の当事者とされた黒人たちがどのような反応を示したのかを検討した。ここでは、その手掛かりとして、州議会下院議員を務めていた黒人の政治家ジェームズ・ヤングが編集していた新聞『ガゼット』紙を主たる資料として、黒人の権利制限が目前に迫る政治的状況下で繰り広げようとしていた黒人たちの戦略について迫った。
8. 「『支配』の表象とプロパガンダ—政治における『逆転のレトリック』と他者恐怖の醸成—」（査読付）	単独	2019年7月	日本国際文化学会第18回全国大会、共通論題 於 長崎大学	本報告では20世紀転換期のノースカロライナ州で生じた「政治支配」をめぐる対立を風刺画の分析を通じて検討していく。ここでは、政治的な支配力が後退しつつあった富裕層の白人たちが、自らの地位を維持する目的で行った表象行為のなかでなされた、ジェンダーと性の問題に関わる表象を中心に検討した。

9. 「『暴力』と表象—政治と文化の接合点の模索—」報告代表者 (査読付)	共同	2019年7月	日本国際文化学会第18回全国大会、共通論題 於長崎大学	本共通論題では、時代と地域を超えて広く行われてきた「暴力」や「抑圧」といった行為が如何に表象されてきたのか、あるいは表象という行為そのものが有した政治性について検討することを目的とした。ここでは、3名の若手研究者による報告を通じて、「暴力」とそれに関わる表象が時代と地域を超えて共有されてきたことを明らかにした上で、それぞれの報告者が提起した諸問題の現代的な意義について、フロアの研究者たちと共に検討した。(共同報告者、深松亮太、田島樹里奈、月野楓子、木原誠 [コメンテーター])		
(演奏会・展覧会等) 1. 2.						
(招待講演・基調講演) 1. 2.						
(受賞(学術賞等)) 1. 2.						
研 究 活 動 項 目						
助成を受けた研究等の名称	代表、 分担等 の別	種 類	採択年度	交付・ 受入元	交付・ 受入額	概 要
(科学研究費採択) 1. 2.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く)) 1. 「研究支援グラント」	代表	学会公募	2014年度	日本アメリカ史学会	100千円	研究課題「ノースカロライナ州における反黒人キャンペーンの展開と黒人—ジェームズ・ヤングの活躍を事例として」(研究期間2014年7月～2015年9月)
2. 優秀博士論文出版助成金	代表	学内公募	2020年度	法政大学	1000千円	助成金を受けて、『政治風刺画による「社会不安」の可視化と「黒人支配」への恐怖：20世紀転換期の米国地方紙にみるネガティブ・キャンペーンと「人種」』をミネルヴァ書房より出版した

(共同研究・受託研究受入れ)						
1. 「若手研究者共同研究プロジェクト」	代表	学内公募	2019年度	法政大学	300千円	研究課題「風刺画家たちの人的交流と表現手法における相互影響関係に関する研究」 当初2019～2021年度の3ヵ年 にわたる研究計画（総額900千円）であったが、2019年9月に常磐大学専任教員としての採用により研究を中断した。共同研究者、熊田泰章（法政大学教授）
(奨学・指定寄付金受入れ)						
1. 優れた業績による大	代表	一般公募	2008年5月	日本学生 支援機構	2112千円	修士課程における業績に対する評価
2. 法政大学大学院奨学	代表	学内公募	2011年度	法政大学	200千円	修士課程での成績による評価
3. 法政大学研究助成金	代表	学内公募	2012年度	法政大学	200千円	大学が実施した就学助成金
4. 法政大学研究助成金	代表	学内公募	2013年度	法政大学	200千円	大学が実施した就学助成金
5. 法政大学研究助成金	代表	学内公募	2014年度	法政大学	200千円	大学が実施した就学助成金
6. 金洛洙奨学金	代表	学内公募	2013年度	金洛洙氏 (個人)	300千円	学内選抜(業績等)の結果として日本人枠で採用
7. 優れた業績による大	代表	一般公募	2014年5月	日本学生 支援機構	2196千円	博士課程における業績に対する評価
8. 金洛洙奨学金	代表	学内公募	2015年度	金洛洙氏 (個人)	300千円	学内選抜(業績等)の結果として日本人枠で採用
(学内課題研究(共同研究))						
米国における風刺画家の人的ネットワークと表現手法の相互 1. 影響関係に関する総合的研究	代表		2022年度		400千円	研究課題「米国における風刺画家の人的ネットワークと表現手法の相互影響関係に関する総合的研究」(研究期間2022年5月～2023年3月)
(学内課題研究(各個研究))						
1. 2.						
(知的財産(特許・実用新案等))						
1. 2.						